
歪み壊れる素敵な世界

塩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歪み壊れる素敵な世界

【Nコード】

N3407Z

【作者名】

塩

【あらすじ】

これは前に書いたPeople With Particula
r Abilityの訂正加筆などを加えたものです。
あちらを読まれていた方はぜひ読んでいただきたいです。

prologue (前書き)

いずみ野中に科学部はないようです

過疎ってる図書館。大好きです。
叔父の家が近いんだけどw

prologue

12/11 日曜日 17:44 堺慧

本格的に寒くなってきた冬。

横浜市立いずみ野中“自称”科学部では、今日も『ability』
についての会議が行われようとしていた。

『ability』というのは、この世界の一部の人々の持つ、『
能力』、およびそれを持つ人々のことだ。

国の発表では地磁気の乱れによるものとされたが、僕らの研究では、
遺伝することが確認されている。

とりあえず、部室として使われている実験室に入った僕らは蝋燭に
火をようとす。

が、ガス漏れで我等が部室が爆発。

一瞬にして僕らの意識はどこかへ飛んだ。

stage111へ

Stage 1 - 1

「ぶはッ」

意識が戻った。

ふと前を見ると僕らとタメであろう少女が立っていた。

隣には科学部員。

周りは真っ白。

少女は言う。

「三途の川へようこそ」

「あらら、俺たち死んじゃったのか（笑）」

田中が言った。

「まあ気にすることでもないけどねー（笑）」

真目まめが言った

「だな（笑）」

僕も乗っかった。

などと言っていると、少女が言った。

「あなた方の『身体』はもう散りました。が、貴方の魂は今こうして生きています。」

つまり、あなた方には『選択』の権利と義務があるのです」

「よくわからないけど、俺らはこの後どうするべき？」

「良くぞ聞いてくれました」

そういつて彼女はA4用紙を配った。

少女は『死後の選択』と書かれたその紙の中央あたりを指差した。

『死者にはその後どうするか選択肢を与えること

- 1．輪廻の輪に入り転生する
- 2．魂まで完全に消し去る
- 3．能力を持って生き返る』

「なあ、三番って何だ？」

「そのまんまの意味です。下界でいうabilityとなって暮らしていただきます」

しかし、条件があります。

前世の記憶は消しませんが、秘密を他人に話したら貴方を消させていただきます。

もちろん、あなた方が死んだことはなかったことになります」

「そうか。じゃあ」

「では設定を行うので皆さんその棺に入ってください」

「棺って・・・悪趣味だよな（苦笑）」

慧は棺に入って目を閉じた。

stage 1-2へ

Stage 1 - 1 (後書き)

部員

部長 男 田中 聡 愛称：電気ねずみ ポケモン
副部長 女 真目 真美 愛称：まめ 背の低さと、名前

の訓読み

男 堺 慧 愛称：k 慧 k
男 原 充 愛称：みつちー 下の名前
女 堀井 秋 愛称：柊 ほりい h o l l

y 柊

Stage 1 - 2 (前書き)

1 - 2 っていうと地下ステージか…

部長 男 田中 聡 愛称：電気ねずみ ポケモン
副部長 女 真目 真美 愛称：まめ 背の低さと、名前
の訓読み

男 堺 慧 愛称：k 慧 k
男 原 充 愛称：みつちー 下の名前
女 堀井 秋 愛称：柊 ほりい h o l l
y 柊

電気ねずみ 電
まめ 豆
慧 k
原 柊

Stage 1 - 2

電「ホントに戻った」

豆「疑ってたんかい」

電「そりゃまあ」

K「っていつかこの部屋も元通りだね」

部屋を見渡して言う。

豆「あつ、ほんとだ」

み「それよりさ、俺の携帯しらない？」

柊「私のも無いわ」

原「これじゃない？」

電「おお、何処にあった？」

原「何処って、ほら」

机の上に一同の携帯が並んでいる。

K「おい、なんか僕の携帯変だぞ」

電「っていつかこれ……」

原「おおすげえ。しかもこっちのほうは移動早いww」

雪「気化すればもっと早いですよ」

原の姿は見えなくなった

原「うお、マジヤバイwwww」

堺の隣に突如原の姿が現れた。

原「これはさ、自分以外の者にもできるわけ？」

雪「『一般人以外』ならできるよ」

原「マジか」

豆「盛り上がってるとこ悪いんだけど、目力ってどついでっしょ？」

雪「目力UPで、女子力UP」

豆「折るよ（携帯を）」

K「やめて、あくまでその携帯は僕のだから」

雪「ジョークだよ、物を動かしたり意識に直接『目』でうつたえたりとか」

豆「使えるのかな？」

K「まあ、ないよりいいだろ」

豆「まあ、そうだけどき。それよりあんたのはどうなの？」

K「そういわれても」

雪「頭のなかに絵を書くイメージで」

K「ええっところかな？」

堺の目の前に動物ビスケットが出てきた。

柊「ほかにイメージはないのか」

堺の目の前に『堅揚げポテト』『ココナッツビスケット』『たけ
のこの里』が次々と出てきた。

柊「そうじゃなくてだな…はあ」

電「じゃあ、俺もやってみる」

ビリビリ

原「何それ楽しそう」

液体になった原が電気ねずみにあたって…

バリバリ!!!

K「ちよ、あれやばくないすか？」

柗「わー綺麗なイルミネーションね」

K「あれは絶対電気ねずみも自分で感電してるって」

豆「ここで私の目力発動ッ」

キッ

バリバリバ「……」

K「おおとまったった」

柗「ってかもう四時じゃないか」

電「じゃあ解散ッ。おっおっおー」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3407z/>

歪み壊れる素敵の世界

2012年1月14日04時51分発行